

(様式2)

## 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・18〉	いわき市立 大野第一 小学校
<実施日>	平成 28年 5月 6日 ( 金 )	
<実践教科等>	※当てはまる番号に○を付けてください。4は( )に教科等を入れてください。 1 理科    ② 学級活動    3 総合的な学習の時間    4 その他 (            )	
<実践内容>	「ほうしゃせんって なあに①」	
ねらい:	放射性物質の存在を知り、放射性物質を体にたくさん取り込まないように気をつけて生活しようとする。	
	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 運動会の練習後、なぜ手洗いやうがいをするのかを改めて考えさせた。児童からは「ばい菌から体を守るため」「風邪をひかないように」といった考えが出された。ばい菌は目に見えないので、その見えないばい菌から自分の体を守るために、うがいや手洗いをやっているとのことで話がまとまった。</li><li>○ 東日本大震災当時、児童は2歳にも満たない年齢であったが、うっすらと記憶していることもあるようである。児童に「放射線」という言葉を知っているかを問うと、3名のうち2名は知らないとのこと。しかし、大きな地震や、津波(児童は「おおなみ」と表現)のことや、避難したときのことを話してくれた。「ぼくたち、おおなみがきたり、ぼくはつしたりしたときに、みんなで遠くに逃げたんだよ。ばあちゃんは、『ばあちゃんは後で行くから、先に逃げな。』って言って一緒に行かなかったんだ。」といった話が聞かれたことから、家庭等では、これまでも大震災や放射線等の言葉は耳にしていると思われる。</li><li>○ 小学生のための放射線副読本「放射線について考えてみよう」をもとに学習をすすめた。放射線や放射性物質は、これまでも私たちの身の回りに存在しており、その放射線の性質を利用して生活の中でも様々な使われ方をしていることについて資料で確認した。</li><li>○ 身近に存在する放射線や放射性物質ではあるが、今後も健康的な暮らしをおくるため、または、事故等で流れてくる放射性物質を体に取り込まないために、放射性物質から離れること、放射線を受ける時間を短くすること、コンクリートなどの建物の中に入るなどについて確認し、そのためには空気を直接吸い込まない、制限された食べ物や飲み物は飲まないなど自分の身を守る方法について考えた。</li></ul>	
<成果>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 本校では、校外活動や栽培活動も特に制限なく実施しており、児童も保護者も、今はさほど気にしていないことはうかがえる。しかし、あの大震災時のように、事故が起きるとしたら、これから先、未来ある児童たちが、自分自身の身を守るためにできることを知ることは大切である。</li><li>○ 授業後は、いつも行っている手洗いやうがいをこれまでよりも丁寧に行おうとする姿が見られた。</li></ul>	
<課題>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 震災直後に比べると、活動の範囲も広がってはいるが、まだ安全性が保障されていないところ(ホットスポット)もあり、絶対に近寄らないように指導することも必要である。</li></ul>	
資料作成担当者職(講師)氏名	( 高野 享子 )	学校電話番号 ( 33-2258 )

### 【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。  
(送信先: [kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp](mailto:kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp))